

# 特集

# 大阪都構想

2015年5月17日、いわゆる「大阪都構想」の是非を問う住民投票が大阪市内で行われましたが、それから2週間ほど経った5月末に、私はたまたま滋賀県彦根に行く機会がありました。JR彦根駅から北東方向を眺めると、1キロほど先に「佐和山」を眺めることができます。その山の頂にはかつて、関ヶ原の戦いにおける西軍の総大将・石田三成の居城（佐和山城）がありました。その本丸跡に立ち、私は「三成さん、都構想の住民投票は否決されましたが、あなたはどう思いますか？大阪はこれからどうなっていくでしょうか？」と（思わず！）心の中でつぶやいたのです…。

というのも、住民投票が行われた2015年は、大阪夏の陣（1615年）の400周年、すなわち大坂城落城400周年にあたる年ですから、当初私はてっきり、反骨精神に富む大阪人を奮

い立たせるために、すなわち大阪人にとつての辛い歴史を改革のテコにするために、あえて「2015年」が選ばれたに違いない、と睨んでいたからです。しかしそういう狙いはなかったようです。日本史が大好きな私の単なる妄想でした！

さて、本誌『エコノフォーラム21』が今回特集するのは、この大阪都構想です。周知のように住民投票では「反対」が「賛成」を僅かに上回りましたが、本誌は賛成・反対のいずれにも肩入れするつもりはありません。むしろ国民の一人として特定の政治的見解を持つことは重要であり、民主政治における「国民の義務」であると言ええるでしょう。しかし本誌は、可能な限り、政治的中立を守り、学問的議論に徹しなければならぬ。これが、この問題に対する本誌の基本的スタンスです。

大阪都構想には多くの論点が含まれるため、単純に賛成・反対と割り切ってしまうような問題ではないと思われまます。個々の論点を細かく丁寧に、冷静に考察する必要があります。すなわち、そもそも大阪にはどんな諸問題が存在するのでしょうか？またその解決にはそれぞれどんな方法が最善なのでしょう？これらのことを調べて整理せずに、都構想の賛否を語るのには、あまり生産的ではありませんよ。

（編集担当…本郷亮）